



# 災害に備えよう

～いざというときのために～

3月11日に発生した東日本大震災により、多くの尊い命が犠牲となりました。このような大きな災害が発生した直後など一刻を争うときは、行政による救助や支援が間に合わないことがあるため、過去の教訓から自らの力で災害に対応することはもちろん、隣近所をはじめとした地域の助け合いが重要になります。いざというときのために、日頃からしっかりと災害に備えておきましょう。

## 地域の人たちで顔の見える関係を築いておくことが大切です

### 自主防災組織の結成

平成7年の阪神・淡路大震災では、倒壊した家屋などに閉じ込められて自力で脱出できなかった人たち約35,000人のうち、約27,100人(約8割)は家族や近隣の住民により救出されました。

このように地域の助け合いが被害を軽減する大きな力となります。災害に備えて、自主防災組織を結成し、組織的に防災活動が行える体制を整えておくことが、円滑な救助・救護・救援などの活動を可能にします。

手稲区では現在、166の町内会・自治会で自主防災組織を結成しています(結成率87%)。



▲防災訓練の様子



▲防災リーダー研修の様子

### 市が町内会の活動をサポートします



#### ※防災資機材の助成

札幌市では、自主防災活動を支援するため、消火・救出・救護活動に必要な資機材を、自主防災組織を結成した町内会に助成しています。

### 災害時の支え合い(災害時要援護者避難支援)

災害が発生したときに、自分や家族だけの力では安全な場所に避難できないなど、周りの人の手助けや特別な配慮を必要とする人たち(要援護者)がいます。地域住民(支援者)がそのような人たちの避難を支援し、避難場所における生活を手助けすることを、災害時要援護者避難支援といいます。

そして、現在、市内各地で体制づくりが行われています。支援に当たっては、要援護者が地域のどこにいて、どのような支援を求めているのかなど、要援護者情報の収集が前提となります。また、誰(支援者)が誰(要援護者)に何をするのか、それぞれの役割と、その内容をあらかじめ決めておくことが大切です。

## 札幌市災害時要援護者避難支援の概要

